

Linux には文字コードや改行コードを変換するコマンド「nkf」が含まれます。nkf の使用例を示しましょう。例えば、Windows 上で作成したテキスト・ファイル「sample.txt」を Fedora Core のデフォルトの端末エミュレータ上で cat コマンドを用いて表示すると、写真 A-1[拡大表示] のようになり、日本語文字が化けています。そこで、nkf コマンドでファイル「sample.txt」の文字コードを UTF-8、改行コードを LF に変換します。変換先のファイル名は「sample_u.txt」とします（nkf は変換後のテキストを標準出力に出力しますので、ファイルにリダイレクションします）。

```
$ nkf -w -Lu samba.txt > sample_u.txt
```

ここで、コマンド行オプション「-w」は文字コードを UTF-8 に変換する指定、「-Lu」は改行コードを LF に変換する指定です。Vine Linux では、日本語文字コードは日本語 EUC ですので、コマンド行オプション「-u」の代わりに「-e」を指定します。改行コードは Fedora Core 3 の場合と同じです。変換後のファイルを cat コマンドで表示すると、文字化けしていないことが分かります。

また、Fedora Core で作成したテキスト・ファイル「sample.txt」を Windows 上で文字化けせずに表示できるファイル（ファイル名は「sample_s.txt」）に変換するには、

```
$ nkf -s -Lw sample.txt > sample_s.txt
```

と入力します。「-s」は文字コードをシフト JIS に変換する指定、「-Lw」は改行コードを CR+LF に変換する指定です。

まとめて一括変換する場合

```
find -name '*.cc' | xargs nkf --overwrite -w
```

半角カナを維持する

<http://d.hatena.ne.jp/itiri/20080301/1204369502>

オプションを指定しないと、半角カナは全角カナになる。

```
nkf -xwLu ms-ime.txt > msime.txt
```

のように -x をつけると、半角カナを維持する。